

GREEN RADAR

新春のスタートにあたって ～平成29年 年頭メッセージ～

重点事業方針 A-Policy

- ・春のわくわく・ドキドキ モーターキャンペーン展開による自動車推進について
- ・平成28年度野菜・花きの中期事業計画の進展状況

2016年 各部のトップニュース

レポート A-Reports

- ・市田柿 GI登録後、初出荷
- ・シナノゴールド／Yello® がイタリア南チロル州にて本格栽培へ

Vol.452

JANUARY 2017

1



信州プレミアム牛肉販売DVD・テレビ番組製作



市田柿 GI登録後、初出荷



インターポーザ2016、「シナノゴールド／Yello®」紹介ブースにて



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

新春のスタートにあたって

（平成29年 年頭メッセージ）

新年あけましておめでとうございます。輝かしい新春をご家族お揃いで、お健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、4月の熊本地震をはじめ、全国各地で大変多くの自然災害が発生し、長野県におきましても、10月上旬の台風により、松本・安曇地域を中心にりんごの落果などの農作物被害が発生いたしました。被災された皆様にはあらためまして心からお見舞い申し上げます。

私は昨年6月23日の会員会議において大槻前会長の退任を受け、運営委員会会長に選任され就任いたしました。経営管理体制の高度化と県本部総合経営管理体制の堅持という県本部経営管理の基本を踏まえ、会員JAと一体的な事業運営により、生産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、

JA組合員の営農と生活の向上に貢献するという基本理念に添い、微力ではありますが、健全な事業運営と長野県農業の発展に努力する所存であります。

ご承知のように、「農林水産業骨太方針」を反映した13項目にわたる「農業競争力強化プログラム」が、政府の農林水産業・地域の活力創造本部により決定され、その中には全農に関する内容も盛り込まれました。生産資材の買い方の見直しと生産販売物の売り方見直しに取り組み、農協改革集中推進期間に十分な成果が出るよう年次計画を立てて取組むといった内容です。このような政府の決定は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯）を侵害するもので受け入れ難い気持ちで一杯ですが、今後は一層各JAや関

係先との話し合いを進め、全農全国本部と農水省の協議に対して、是々非々での強力な働きかけをしたいと考えております。加えて、全農長野県本部をはじめJAグループは「真に農業者の立場に立った改革」を加速し、1円でも多く生産者手取りを確保し、1円でも安く良い資材を供給するという農協の原点に立ち、自己改革を進めて参ります。

この1月は旧暦の和風月名で「睦月」と称します。親族をはじめ、人々が集い「睦みあう月」であるから「睦月」とされています。同じように草花がたくさん生い茂る3月を「弥生」、田植えを意味する「早苗」の月「早苗月」が短くなつて5月は「皐月」と称されます。日本がかつてから取り入れていた暦は、四季と密接に係わる日本の文化・風習に深く根ざしたもので

ありました。こと農業にあたっては、北アルプスに現れる雪形と同じように、農作業を行なう目安・抛りどころとなっていました。私たちJA組織には、そうした農村の文化・風習を守り、未来に引き継いでいく使命もあると考えています。

平成29年が組合員はじめ地域の皆さまとって更に飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、新春のごあいさつとさせていただきます。

全国農業協同組合連合会長野県本部
運営委員会会長 雨宮 勇



燃料・ホーム
エネルギー課

春のわくわく・ドキドキ モーターキャンペーン展開による 自動車推進について

4月、新社会人が巣立ちます。また、転勤で新天地に赴く人、あるいは新たな世界に飛び込んでいく人、多くの方々の旅立ちの季節です。そして、この前の期間が年間で一番自動車の購入が活発となる時期でもあります。これらの人達は、期待でわくわくもしているでしょうし、また、不安でドキドキもしていると思います。

長野県JAでは、20年程前から「春のわくわく・ドキドキモーターキャンペーン」と銘打って自動車の推進活動をしてきました。

「春のわくわく・ドキドキモーターキャンペーン」は県内のJAオートパル・JA自動車整備工場で開催します。詳細は以下のとおりです。期間中に新車・中古車をお買い上げいただいたお客様に抽選で旅行券・商品券をプレゼントします！

また、「車検入庫促進キャンペーン」も同期間で開催しており、期間中に車検を実施していただいたお客様に抽選でJA農産物をプレゼントします！



お得なキャンペーン期間中にお車の乗換えや車検はいかがでしょうか。詳しくは、お近くのJAオートパル又はJA自動車整備工場までお気軽にご相談下さい。皆様のご来店を心よりお待ちしております！



2017
春の
わくわく
ドキドキ
モーターキャンペーン

- (1) 期間
平成29年1月1日①～3月31日②
- (2) 実施店舗
長野県内JAオートパル・JA自動車整備工場
- (3) 対象条件とプレゼント内容
 - ① 新車又は中古車をお買い上げのお客様の中から抽選で
Nツアー旅行券……40本(20,000円分)
まごころ商品券……100本(3,000円分)
 - ② 車検実施のお客様の中から抽選で
JA農産物……100名様

野菜・花き課

平成28年度野菜・花きの中期事業計画の進展状況

平成28年度の事業計画は、野菜事業560億45百万円、花き事業65億10百万円、購買種苗事業8億10百万円であり、当課の事業計画合計633億65百万円の必達を目標に事業推進してきました。

1. 野菜事業の進捗状況について

本年度前半は野菜の作付けと生育が非常に順調に進みました。第一の要因は春先からの野菜の生育に適した気象経過が上げられます。農耕に適した天候を表すのに「五風十雨」（ゴフウジユウウ）という言葉がありますが、今年の前半はまさに、5日ごとに風が吹き10日ごとに雨が降る状態であったといえます。加えて、主力産地での労力確保が順調に進んだことも大きな要因でした。

このため、8月まではほとんどの野菜が豊作基調となり、価格が低迷する状態でした。量販店等への売り

込みや、店頭試食宣伝会を懸命に実施しました。店頭試食宣伝は昨年よりも125%以上の店舗数での実施となつています。しかしながら、夏場の消費の底が浅いハクサイにおいては、断続的に調整廃棄事業を実施せざるを得ない事態となりました。

その後9月から天候に異変が生じる事になりました。県内はまとまった断続的な降雨に加え、極端な日照不足に陥りました。特に9月中旬から10月上旬の日照時間の短さは記録的なものでした。このため、本県の野菜も病害の発生等により作柄が低下しました。本県以外でも北海道では台風による未曾有の災害があり、秋冬主力産地の茨城・千葉・愛知・兵庫等は定植直後の露地野菜が9月～10月の気象災害により本県以上の被害を受け、10月～11月は全国的な野菜不足の状態となつたことは記憶に新しいと思います。

このような経過もあり、野菜事業

2. 花き事業の進捗状況について

生育初期から高温傾向で推移した気象の影響で、本年度前半の生育は総じて前進傾向となりましたが、8月旧盆需要へ向けた出荷は直前の干ばつや一時的な夜温の低下もあり、一部品目を除きキク類を中心にほぼ需要期にはまる結果となりました。

9月中旬以降は記録的な日照不足により、野菜同様全国的に病害の発生や生育遅延が起きました。9月秋彼岸需要への出荷は概ね需要期にはまりましたが、秋彼岸明け以降は全国的に流通量が減少し物不足の状態になりました。

秋需要期の仕入れが強まる中、主力のカーネーション、トルコギキョウ、ダリア、また10月以降に本格出荷となるアルストロメリアの出荷量が伸びず、その結果花き事業の3月末見通しは計画対比98%、約63億円を見込んでいます。

作付けの拡大とともに既存生産圃場の出荷効率向上に努めてきましたが、気象経過が与えた影響が予想以上に大きく次年度の作付けや栽培管理に課題が残りました。引き続き品

の3月末見通しは計画対比109%の約613億を見込んでいます。結果的には後半の価格高騰に助けられた形ではありますが、本県の主力品目はほとんどが前年数量実績を上回っており、前半の苦しい中での販売促進と後半の懸命の数量確保による成果でもあります。

気象変動・東日本大震災以降の東北産地の生産力低下・輸送情勢の変化により、本県の野菜に対する市場や実需者からの期待はさらに高まっています。次年度に向けて葉野菜主力品目の計画生産や果菜類等の生産振興をさらに進めます。

【野菜の重点推進事項について】

(1)夏ハクサイ、レタス類（特にリーフ系レタス）の需要に見合った適正生産については、今年前半は豊作であったとはいえ、過去3年の好調な販売結果から、再び過剰生産となつてしまった可

能性があります。現在、本年度の作付け実態を検証すると共に、次年度に向けて、夏ハクサイの代替作物を示しながらの適正生産誘導や、レタス類の需要動向に見合った生産誘導を進めていきます。

(2)ここ数年常に課題となる秋作の生産安定については、年々気象変動が極端になつており、対策が追いつかない状況ともいえますが、栽培技術体系の見直し、優良品種選定など対応を進めます。

(3)果菜類の生産拡大については、遊休パイプハウスを利用してのミニトマト栽培や、規格簡素化した業務用キュウリの導入などモデル的な事例が徐々に拡大してきています。また、収穫作業の機械化については業務用キャベツにおいて進展が期待できそうな状況です。

質的、物量的に安定した生産ができるよう進めます。

【花きの重点推進事項について】

(1)主要品目や各地区の特産品目について、新規栽培の誘導を始め作付け方法や栽植密度、また仕立て方法など多様な提案を行い新たな取り組みによる生産も始まっています。

(2)量販需要向けのコギクについて、多収穫省力型の専用栽培による生産拡大を進めています。8月旧盆需要向けを中心に拡大中ですが、今後は9月秋彼岸需要を

狙った作型にも取組む予定です。

(3)本県重点実需者への安定取引を目的に複数JAによる供給販売に取組んでいます。アルストロメリアでは県下4JAによる長期予約取引や合同宣伝会等、他品目に先駆けて取組が進んでいます。

(4)花き栽培に関わる技術指導やこれからの生産振興と産地づくりについて、定期的な講習会やJA長野県営農指導者会議花き専門部の活動を通じて技術継承など人材育成に努めています。



夏期に900回超（昨年比約2倍）の店頭試食宣伝会を実施し、消費を促しました。

11月に実施したアルストロメリアの4JA合同宣伝会



2016年 各部の トピックニュース

【JA長野県営農センター】

■キウリ・アスパラガスの 生産者経営状況調査を実施

JA長野県営農センターでは、農業所得の増大を事業方針の大きな柱のひとつとして掲げていますが、すでにある程度確立された栽培技術の普及もさることながら、生産現場実態に基づく生産振興をすすめています。

そのなかでも消費地からは久しく生産拡大の要望があるキウリやアスパラガスについて、県内生産者全戸を対象に、経営の詳細についてアンケート調査を実施しました。キウリについては8月末、アスパラガスについても9月末までにアンケートを回収し、データを各JAにフィードバックしたところです。キウリについては、高齢化に伴いそろそろ止めたいという生産者がいる一方で、作付を拡大して所得を増やしたいという意向のある生産者も一定数いることがわかりました。アスパラガスについては、産地・生産者によって反収に大きな開きがあることが明らかとなりました。

アンケート結果をもとにした全県レベルの分析はある程度できたとありますが、今後品目別・JA別に実態を分析し、不足の部分については



穿孔暗渠機「カッパ」

現場のJAと一緒に実態把握を行い、最終的には農家個別の生産・営農指導ができるよう取り組んで行きたいと考えています。

この冬の農閑期が、生産者と次年度を一緒に考えるチャンスだと思えますので、営農センターの知恵と体力をフルに活用して生産農家に飛び込んでいきます。

【生産販売部】

①青果物花き取引会議（果実課）

平成28年6月2日、長野県阿部守一知事をはじめ総勢90名の出席の下、ホテルメトロポリタン長野で「平成28年度青果物・花き取引会議」を盛大に開催しました。主催者として大槻憲雄会長から、日頃のお取引の御礼と、TPP、農協改革など課題が山積であるなか、生産販売部取扱目標1,552億円に向け、卸売市場とはパートナーシップ構築の強化を図りたい等の挨拶がありました。青果・花き主要卸売会社の代表からは「TPPによる流通変化予測と長野県農業への期待」「青果物の海外輸出事業の変化と今後の将来性」「花きの需要動向と、今後の生産振興の進め方」について提言をいただきました。



②東洋ライスと連携した

米輸出事業の開始（米穀課）

米穀課は8月29日、東洋ライス㈱との合同

記者会見で長野米を使った高付加価値米である「金芽米」の輸出について発表しました。

従来、流通コストが高く、輸出先での産地間競争が激しいなど、農業所得を確保する観点では米の輸出は難しいと判断していたところですが、しかし、長野米の重点取引先である東洋ライス㈱の「金芽米」輸出拡大により、農業所得の向上と長野米の更なる販路拡大を目指し、「金芽米」の輸出について東洋ライス㈱と共同して取り組みます。



③中期計画実現に向けての新部署設置

園芸関係の中期3カ年計画においては、①生産基盤の維持・拡大 ②集出荷対策の向上 ③販売力の強化 ④商品提供力の強化を柱としています。その具体的展開内容として、系統結集強化、部会の活性化、様々な需要への対応が求められており、それらへの対応強化のため、新たに生産販売部内に生産販売企画課を設置しました。また、花き生産振興強化のため、野菜花き課内に花きグループを設置しました。

【生産購買部】

①県域拠点からの農業農家直配送を開始

農業購入経費が一定額以上の水稻生産者を対象として、県本部物流基地からの農業直配

送を本年度より開始しました。

従来、農業の戸配送はJA倉庫経由の物流が主流でしたが、この事業では県本部物流基地から農家への直配送による物流コスト削減メリットをJAを通じ農家価格に還元し、生産コスト低減に寄与することを目的としています。

本年度は5JA40戸の生産者にこの事業を活用していただきました。29年度からは果樹生産者も対象に加えて取組みを強化します。



②「JA農機&資材フェスタ2016」開催

長野市エムエーブで7月15日(金)～16日(土)通算20回目を数える県下統一農機展示即売会「JA農機&資材フェスタ2016」(JA長野県生産資材事業推進協議会主催)が開催されました。

農家組合員に推奨する農業機械・生産資材等の実演・展示即売をすることにも、新規就農者や農業に関心を持つ潜在・次世代ユウザーに向けて、系統生産事業のPRを図りました。なかでもドローンによる農業散布模擬実演や農作業アシストスーツの展示・試着、水稻の密苗技術などの企画コーナーへの関心が高く、省力化技術への期待の大きさが窺われました。

来場者数は、バス動員・一般客あわせて5,125名(計画比103%、前年比95%)、成約金額は、17・98億円(前年比100%、

計画比120%)となり、昨年に引き続き過去最高水準の結集をいただきました。本年度の特徴として、アグリシードリフス事業対象の大型農機と、中古機の成約が伸びました。また成約金額の増加傾向の背景には、すすむ農家の規模拡大に対応した大型農機の需要の高まりなどが要因として挙げられます。

計画比120%)となり、昨年に引き続き過去最高水準の結集をいただきました。本年度の特徴として、アグリシードリフス事業対象の大型農機と、中古機の成約が伸びました。また成約金額の増加傾向の背景には、すすむ農家の規模拡大に対応した大型農機の需要の高まりなどが要因として挙げられます。



③「農業機械レンタル事業」の開始

農業機械課は、生産費に占める割合が高い農業機械のコストを抑制する目的で、県域農業機械レンタル事業の取組みを開始しました。規模拡大がすすむ大規模経営農家・法人などの担い手からは農業機械コスト低減に対する要望が強まっています。また、新規就農者にとつて初期投資の抑制は大きな課題です。すでに複数のJAでは独自で農機レンタルを行っていますが、当レンタル事業は、JAのレンタル所有機にない大型機械や、農家の費用対効果が低い機械を県本部が取得し、JAを通じて利用者にレンタルします。

レンタル機の貸出しは、JAの農機センターや営農部門を通じた需要調査を実施したうえで機種選定を行い、来春から行う予定です。

【畜産酪農部】

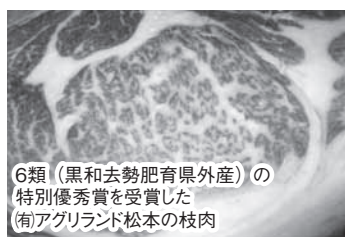
①第69回長野県畜産共進会で和牛枝肉に高い評価

歴史ある長野県畜産共進会が本年度69回を数え、下記の日程により開催されました。

- *肉豚の部
10月19日(水) ㈱長野県食肉公社
- *肉用牛種牛の部
11月10日(木) 長野県中央家畜市場
- *肉用牛交雑牛肥育
12月2日(金) ㈱長野県食肉公社
- *肉用牛黒毛和種肥育
12月6日(火) 大阪市食肉市場(株)

特に、大阪市食肉市場で開催された黒毛和種肥育においては、出品頭数48頭中、肉質等級で5等級比率72・9%、4等級以上比率95・8%と、過去最高の枝肉格付評価となりました。また、オレイン酸数値基準による「信州プレミアム牛肉」

認定比率も95・8%となり、関西市場での認知度向上と相まって、その品質の良さをあらためて証明する共進会となりました。セリでは、最高で4、



6類(黒和去勢肥育県外産)の特別優秀賞を受賞した(有)アグリランド松本の枝肉

579円/kgの値が付けられ、3,000円/kg以上の高値取引も6頭に及ぶなど、市場からも高い評価を頂きました。

来年には、和牛のオリンピックと呼ばれる「全国和牛能力共進会」が9月に宮城県で開催されますが、今回の共進会の結果は、来年の「全共」に向け期待を膨らませるものとなりました。

②「信州プレミアム牛肉」販売促進DVD

ならびにテレビ特別番組製作

平成24年12月から、京都、大阪の各食肉市場でも上場を開始している「信州プレミアム牛肉」ですが、今年度、市場関係者から、ストーリー性のある販促媒体がほしいという要望があり、今回、京都食肉市場買参者向けに産地の様子や関係者の評価などを店頭で放映できるDVDを製作、関係者に配布しました。市場関係者からは、生産者の様子や子牛市場の様子が良くわかると大変喜ばれました。

また、日本を代表する観光都市京都で、信州産の和牛が高く評価されていることを県内でも知ってもらう、牛肉消費の拡大を図るために、テレビ特別番組の製作にも取り組みました。(平成29年1月21日放映予定)

③地域の盛り上がり即したキャンペーンの実施

本年は7年に1度の大祭、諏訪大社御柱祭にちなんで、「信州がおいしい農協牛乳」と八ヶ岳牛乳で記念パッケージを作成しました。また、NHK大河ドラマで放映され盛り上



セリ前に挨拶をする田内組合長

11月25日(金)と26日(土)の両日、ＪＡみなみ信州と全農長野県本部は、市田柿の地理的表示保護制度（ＧＩ制度）登録後、初となる市田柿の販売推進会議とトップセールスを東京都中央卸売市場大田市場で開きました。

POPで地理的表示保護制度の登録商品となったことをアピールしました。また、セリ前には田内組合長が仲卸・買参人の皆様に向けて「世界の市田柿としてPRしたい」と販売の協力をお願いしました。

市田柿 G-I登録後、初出荷

前日の25日には、関東地区の主力卸売会社5社と販売推進会議を開き、生産状況や販売情勢などについて意見交換をしました。産地側からは「収穫から現在まで天候に恵まれ作業は順調に進んでおり、集荷計画は昨年並みを見込んでいます。販売面では重点市場を中心に実需者を明確にした取引を進めていく。さらに今年の7月に地理的表示保護制度に県内で初めて登録されたことから、ブランド作りのため実需者へのマーク表示徹底を図り認知度を高めたい」と報告しました。卸売会社からは「今年は年末の果実が少ない見込みのなか、市田柿の売場は広がるのではないかと」という期待と「G-Iの認知度はまだ低いが、産地と協力し

ながら認知度を高めたい」との話があり、市場関係者との連携強化を図りました。また、販売推進会議に先立ち、農林水産省に出向いて磯崎陽輔副大臣を表敬訪問し、G-I登録後初出荷の報告をしました。田内組合長は「G-I登録により、ブランドに恥じない商品を作りたいと生産者の意欲が高まっている。今年は登録の効果もあって注文も早くから入っている」と好影響が広がっていると説明しました。副大臣室に並べられたG-Iマークを付した初物の市田柿を試食した磯崎副大臣は「伝統を感じる味わいでおいしい。いい柿に仕上がっている」と感想を述べました。

一方、ＪＡみなみ信州とＪＡ上伊那は11月30日(水)、ＪＡみなみ信州の田内組合長とＪＡ上伊那の御子柴茂樹組合長、両ＪＡの常勤役員が出席し、市田柿の販売で連携する契約書に調印し、記者会見を開きました。ＪＡ上伊那は平成25年から市田柿のばら进行ＪＡみなみ信州の市田柿工房に出荷しています。今年度からは生産者が包装した

契約書を披露して握手をする
御子柴組合長(左)と田内組合長(右)

がりを見せた「真田丸」にちなんで、「信州がおいしい農協牛乳」にて真田氏ゆかりの地パッケージを3回作成しました。それぞれキャンペーンを実施し多くの応募を頂きました。

牛乳の記念パッケージ



【生活部】

①ＪＡ別マスタープランの策定 ～SS施設点検の実施～ (燃料・ホームエネルギー課)

ガソリンの需要減少と他店との競争激化により系統燃料事業の厳しい環境が続く中で、燃料・ホームエネルギー課では、給油所（ＳＳ）のエリア戦略構想によるマスタープラン（統廃合・再配置）策定に取り組んでいます。マスタープランの策定に当たっては、「組合員戸数からの需要想定」「バイパス道路開通などによる導線変更」「中山間地のライフライン確保」等を視点に検討を進めてきました。しかし、ＪＡとして「残すＳＳ」に選定した施設の中にも経年劣化・地盤沈下などに

り修繕が必要とされるケースが想定されます。かつて土壌汚染・地下タンク老朽化調査を目的として平成17年度にＪＡ・ＳＳ自主調査「ＳＳ施設管理環境調査」を実施しましたが、10年が経過しています。

そこで今年度、一定の条件に当てはまる89ＳＳの「ＳＳ施設点検」を実施しました。専門業者（長野精器機）の同行により、日常管理・建物の損傷・配管設備など40項目にわたる点検調査を行い、修繕方法・費用を具体化しマスタープラン検討に活用しました。

ＪＡからの要望も多いことから、来年度以降も継続的に「ＳＳ施設点検」を実施し、マスタープランを策定し、さらに日常点検・施設管理の意識高揚に取り組みます。

12／1にオープンした
「JA大北 小谷SS」

②高額洗車（コーティング）の プロショップ化で収益向上を目指す

協同経営SSでは、需要が高まっている「高額洗車（コーティング）」を重点商品に位置

づけ、業界大手のKeeper技研(株)が認定する「キーパープロショップ」の立ち上げを進めてきました。

同社認定のコーティング1級資格者を育成に必要な機器・備品などを揃え、6月に志賀高原SS、10月にサザンポートみのわSSと東部中央SSが「プロショップ」として認定を受けることができました。

プロショップではより高品質なコーティングを提供しておりますので、皆様のご利用を心よりお待ちしております。



プロショップの認定を受けた志賀高原SS

③「大人の文化祭2016NAGANO」出展

「長野県ＪＡ葬祭虹のホールグループ」では、本年度9回目を迎える『大人の文化祭』（主催／大人の文化祭実行委員会 事務局／信越放送）に初めて出展し、ＪＡ虹のホールグループをPRしました。

会場では今年新たに設けられた「終活」を

テーマとした「クールシニアゾーン」に、信連・厚生連他、ＪＡグループが連携し出展しました。

ＪＡ虹のホールグループのブースでは、その人らしく送りたい、それぞれの想いに寄り添ったお葬式の提案をコンセプトとし、故人の設定を「晩年をハワイの地で過ごすことが夢だった女性」として宗教色を一切出さない祭壇を展示しました。祭壇には洋花や花の水槽を置き、普段の葬儀のイメージとは違った祭壇であったため、来場していたシニア世代（特に女性）の方は興味深く見入っていました。

このほか、県下ＪＡ49ホールを紹介するパネルの展示や各ホールのパンフレットを展示しPRしました。

近年は葬儀の小規模化や異業種の参入など、葬祭事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。今後も従来の「型」にとらわれない柔軟な発想・提案力・実行力を発揮し、ＪＡ葬祭事業の更なる発展に向けて取り組みます。

ハワイをイメージさせる祭壇



シナノゴールド／Yello[®] がイタリア南チロル州にて本格栽培へ



公式歓迎レセプション、州政府代表者および「VOG」「VI.P」会長 他

平成28年3月24日に長野県庁においてイタリア南チロル州のリンゴ専門協同組合連合会「VOG」「VI.P」と「長野県」が『品種シナノゴールドおよび商標に関するライセンス契約』を締結。11月24日～26日にイタリア北部のボルツァノ市において、2年に1回開催される「インターポーマ2016（世界リンゴ展示会）」にて、『シナノゴールド／Yello[®]』の発表記者会見および試験場・集出荷施設の視察に、長野県農政関係者と共に同じ生産者団体として全農長野県本部も招待されたので4名にて参加しました。

数ある世界中の黄色系新品種の中から「シナノゴールド」を選定した理由として、『貯蔵システムが確立され長期販売戦略が組める品種である』『事前のモニタリング調査を含めたマーケティングにおいて高い品質（食味等）評価を得た』『地域の産業（農業）に大きく貢献できる品種である』事を強調されていました。

ヨーロッパ等世界では、リンゴは1年間を通じて食される果実として家庭調理も含めて常に食卓に上る食材であ

り野菜感覚で消費されています。今後、黄色の中心品種として南チロル州の標高600m～800m地帯を中心に産地化が進められ、2017年には6万5千本、2018年には8万本の苗木を供給し、高密度わい化にて栽培に取り組み、世界をマーケットとしていく計画です。

更なる品質向上技術や現状10a当り5tである単収を伸ばす生産性向上技術において課題はあるが、州政府（試験場・技術サービス組織）と生産者（リンゴ専門協同組合連合会）が連携して解決していく自信があると何う事ができました。

日本と異なり1生産者当りの生産規模や歴史の違いこそありますが、協同組合としての精神（日本の「JA綱領」が実践されていると共に、グローバルGAP取得率も98%となっており世界戦略意識も定着していました）。

今後も南チロル州関係者との交流を通じ、農業所得の増大および協同組合が果たす役割を学びながら、長野県果樹産業の発展に取り組みしなければなら



出荷を待つ「シナノゴールド／Yello[®]」2玉パック



インターポーマ2016会場内、苗木業者展示、フェザー苗

長野県議会議連で農業・農協改革におけるJA・JA全農長野の役割を講演

全農長野県本部は12月9日（金）、長野県議会総合農政対策議員連盟が開催した勉強会において、「JA全農長野の概要と農業・農協改革について」と題して、高木幸一郎本部長がJA組織・事業についての講演を行いました。

これは、今秋の農業・農業改革に関して、本県農業および長野県JAについての理解が必要であるとの趣旨で開催され、県議会議員58名のうち47名の出席がありました。

高木本部長は、営農指導を始めとするJAグループの各事業、長野県農業の特徴、長野県農畜産物の流通、全国的な生産資材流通等の詳細説明を行いました。そのうえで、長野県JAグループの園芸生産販売を例とした生産者手取り確保の取組み、生産資材コスト削減に向けたJA・県本部の価格低減の取組内容と実績を紹介しました。

これらの現状を踏まえ、政府の「農林水産業・地域の活力創造プラン」への正確な理解を求めました。また、同プランで示された委託販売から買取販売への転換についても、その違いを説明したうえで、「農家のためになるかどうかの視点で対応する」ことが必要であるとししました。

議連の萩原清会長からは、「政府の示した改革について、県によっては方法が違っているため、県議会とすれば独自の方向にもっていかないと受け容れられないのではないか。議連としても、国、生産者、消費者が良い方向にいくように取り組んでいきたい。」とのあいさつがありました。

▼総合企画部



JA全農長野の事業現況

平成28年度11月末部門別実績表 (単位:百万円,%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
米	穀	10,841	104	103
果	実	30,189	104	101
野菜	花き	67,398	110	95
野菜種苗センター		137	99	94
きのこ		13,303	100	99
営業		10,973	98	98
生産販売部計		132,841	106	98
包装資材		6,443	95	98
生産資材		7,288	92	85
農業機械		5,329	106	107
施設住宅		4,336	141	137
生産購買部計		23,396	103	101
畜産		9,255	124	108
三岳牧場		205	117	109
SPF繁殖センター		187	100	108
酪農		13,047	106	105
八ヶ岳牧場		216	100	114
畜産酪農部計		22,911	112	107
燃料・ホームエネルギー		14,048	93	91
SS協同経営		6,257	84	88
生活		8,694	100	98
生活部計		28,999	93	92
長野県本部計		208,146	104	98

(内部販売高含む)

1月の動き

総務広報課	1/4(水)	仕事始め
	1/29(日)～2/5(日)	全農日本カーリング選手権大会 軽井沢アイスパーク
生産販売企画課	1/12(木)	花育教室 長野市篠ノ井子ども広場
	1/16(月)	ドライフルーツパーティー 野沢温泉村
野菜花き課	2/2(木)～3(金)	第48回信州フラワーショー ウィンターセレクション JA南信会館
畜産酪農部	実施中 ～2/28(水)	信州の畜産酪農キャンペーン

1月のテレビ・ラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
1/10(水) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	学校給食栄養教諭のお話
1/17(水) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	乳和レシピ
1/21(土) 15:00	abn長野朝日放送	信州プレミアム牛肉特別番組 京都が選ぶ信州プレミアム牛肉～そのおいしさと信頼の秘密～(仮称)	
1/24(水) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳クイズ
1/25(木) 11:50	SBCラジオ	坂ちゃんのずくだせえぶりでー内「暮らしの応援団」	自動車キャンペーンのお知らせ
1/31(水) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳料理について(1級フードアナリスト中島麻希さん出演)

編集後記

年越しの定番に「紅白歌合戦」があります。一時期と比べると視聴率は若干下がっているようですが、依然として40%前後をキープしているのは凄いことだと思います。その紅白についてちょっと調べてみました。結構面白いエピソードがありました。もともと紅白歌合戦は1月3日にやっていた、バラエティ番組であつたそうです。第1回は1954年（昭和29年）に放送されましたが、後に現在のスケジュールとなりました。その理由が「正月はいろんな公演がめじろ押しで、会場の空気がないことから苦肉の策として大みそかにずらしたらしい。」ということのようです。やはり創生期はいろいろと苦労があるんだな、とあらためて思った次第です。新しい2017年が始まりました。この1年が読者のみなさまにとって、素晴らしい1年になることをお祈りいたします。本年もよろしく願います。(Y)



いいカード、揃ってます!



BIG CHANCE!

今がお買い求めのチャンスです!

期間中JAオートパルまたはJA自動車整備工場にて

●クルマをお買い上げのお客様の中からハガキ応募・抽選で

旅行券 2万円×40本

商品券 3千円×100本

●車検実施のお客様の中から抽選で

JA特産物 135名様

プレゼント!!

*当選者の発表は通知書及び商品の
発送をもって代えさせていただきます。

2017
春の
県下一斉
**わくわく
ドエドエ**

モーターキャンペーン

キャンペーン期間

1/1(日) ▶ 3/31(金)

グリーンリーダー1月号 (毎月発行) 2016年12月20日発行
発行/JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 第452号
発行人/高木幸一郎 印刷/PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

